

令和元年度

YURIKAGO 通信

R 1 . 5 . 2 7

《 6 月 号 》
東京ゆりかご幼稚園



田植えも近づき...

可愛い白い蝶の正体

昨年この時期にご紹介しましたが、今年も4, 5月に黄色と黒の幼虫を園内・外で見られた方も多いかと思います。これは「キアシドクガ」という蛾の幼虫。名前を聞くと、びっくりしてしまいますが、毒を持っているわけではありませんのご安心を。名前の印象とは異なり、とても可愛い顔をした蛾です。昨年、今年と八王子、相模原などの地域で大発生しているようです。雛を育てる野鳥にとっては餌が豊富でうれしいかもしれませんが、幼虫は園内・外のミズキの葉をほぼ食べつくしてしまいました(写真のとおり)。さて、その後、幼虫は外周の木のフェンスの下やツリーハウスの下などの雨の当たらない場所でツタンカーメンのようなおもしろい柄の蛹になります。そして、羽化し白雪姫のような可愛い姿を見せます。舞うのは約10日間で、昨年は5月20日頃に一齐に舞う様子が確認できましたが、今年は先日の暴風雨の影響なのか少し遅れ、24日朝、お天道様を浴びて一齐に森の広場を舞う様子が見られました。実に幻想的でずっと眺めていたくなるほど素敵な光景、、、子ども達もその光景をじっと見守っていました。ただ、生態系のバランスを考え、来年はもう少し鳥さん達に頑張ってもらいたいものです。

このように、ありのままの自然が残る本園の環境で生活していると、数え切れないほどの自然との関わりや繋がりを感じ、そこから大きな学びが得られます。日常的に見たり聞いたり触れたりする経験がなければ、その生き物に対しての正しい知識を持ってないことはもちろん、様々な生き物の立場に立って考えることもできません。日々の生活を通しての経験が、心の成長や価値観の形成に大きな意味を成していきます。本園がユネスコスクールとして認定されたのも、こうした価値観の形成が、世界基準の教育「持続可能な開発のための教育(ESD)」に合致していると評価されたからです。一面的でなく多面的に考えることの大切さを、子ども達にも感じ取ってほしいと願っています。(駐車場の南側の森方向でも観察できます!)



ツリーハウスの屋根で

木のフェンス下の蛹

ミズキにとまる成虫

森の広場を舞う様子を観察する年少さん

葉を全部食べられたミズキ

子ども達には「知らない虫は触らないよう、先生に確かめるよう」伝えています。

2ヶ月を経て...

年少さんは幼稚園に慣れ、ゴールデンウィーク明けの「幼稚園よりお家がいい」という退行現象も経て、生活面も徐々に安定し、遊びも広がりを見せています。これまで頑張ってきた反動が見られたり、自我が出せるようになることで友達とのぶつかり合いも増えますが、こうして友達や集団を少しずつ意識しながら人間関係を深め、社会性を育てていきます。この2ヶ月間の日々の経験が自信となって、今後の幼稚園生活を充実させていく大きな礎になります。これまでのお子様の成長を認め、讃え、また励まして頂きますようお願い申し上げます。



年中さんは広いクラスでお友達も増え、制服登園となるなど、年少の頃とは異なる生活環境が「お兄さん、お姉さんになった!」という自信や自覚を促してくれます。触れなかった虫に触れるようになったり、登れなかったアスレチックに登れるようになったり、、、「できること」が格段に増える年中さんにとって、1学期後半は遊びや諸活動に大きく挑戦していく大切な時期です。時には失敗や挫折を繰り返す場面もありますが、挑戦する姿勢を認め、暖かく見守って頂きますようお願い申し上げます。



年長さんはこれまで積み上げてきた経験をもとに、新たな課題に取り組もうとする「意欲」が大きな成長を促します。この意欲を維持し、高め、成長につなげていくためには、何よりも日々の安定した生活習慣が大切です。ご家庭におかれましても、十分な睡眠、早寝早起き朝ご飯、挨拶、整理整頓、ハンカチ・ティッシュなど、年少さんから続けている基本的な生活習慣を崩さずに、就学前の最後の1年を過ごして頂きますようご協力をお願い致します。



“おカイコさん”を育てます!!

本年もカイコを育てます。横浜のシルク博物館から頂いた500粒の卵が孵化し、小さなカイコの赤ちゃんが誕生しています。園庭や森の中の桑の葉を与え、お世話をしていきます。最終的には糸をとり、遊びや生活に活かせる物を作ります!



お花やさいクラブ

お花やさいクラブでは、エントランスを入ってすぐの場所に33個のプランターを置き、お花を植え替え、先にあるガーデンハウスに続く迷路のようにレイアウトをしました。子どもたちも、早速お花の間を歩いたり、ストライダーで通ってみるなどして楽しんでいました。「遊びの傍らにお花がある」ことで子どもたちの心も豊かに育っていきます。お花を通して友達同士、共感し合い、会話が広がっていく様子も見られます。また、この日は、昨年も育てたカワラケツメイ(野草茶)の種もまきました。秋には収穫して、「カワラケツメイ茶」をみんなで楽しみたいと思います。



鉄腕クラブ

鉄腕クラブでは田んぼの畦塗りや泥すべり台、小川とカエル池の整備を行いました。棚田には美しい畦が完成しました。有り難うございました!



年少 栽培風景

年少さんは、にんじん、豆苗(とうみょう)、オシロイバナ、、、いろいろ育てています。昨年の年少さんが育てた菜の花も、お日様に干した後、足で踏んで種をとりました!



豆苗の芽だし

豆苗の発芽

菜の花の種取り

豆苗、菜の花、人参の種比べ

年中 栽培風景



お部屋の前のクラスガーデンのお花にお水をあげたり、アサガオの栽培では畑の土を自分の鉢に入れ、種をまき、水をあげ、虫眼鏡で観察したりと、毎日お世話をすることで、植物を大切に育てようとする気持ちも育っていきます。年少から育てている棚田の麦も元気に育っています!

年長 佐々木洋隊長と森で生き物探し

今年もプロナチュラリストの佐々木隊長と一緒に園庭や森で生き物探しをしました。例年同様、絶滅危惧種の昆虫などが、当たり前のように園庭に生息している様子に、佐々木隊長も改めて驚いていました。みんな、また一步、虫博士に近づきました! ノーベル化学賞受賞者、宇宙飛行士、、、多くの偉人達も幼少期に虫を追いかけていました。小さい命との出会いから好奇心や探究心が育ち、無限の世界が広がっていきます。



キツネのウンチ

年長 「ドングリの苗木をおくる会」

東日本大震災で失われた東北の森を再生するため、東北の園児が拾ったドングリを全国の有志の幼稚園で育て、苗木になったら東北に送って植樹して頂く...という活動があります。当園でも年少の頃から保育室前のプランターで育て、年長になると毎年送っています。今年も八王子南郵便局の局長さんや郵便局の赤い車が園に来園され、2年間育ててきた苗木をお渡しし、東北に送って頂きました。今度は、東北の地で元気に育ってくれるといいですね。



年長 田起こし、入水式

稲作がいよいよ本格始動します。田んぼの土を鉄の剣スコップで掘り起こし、空気を入れ、堆肥を混ぜ合わせ、水入れ。地下120mからの井戸水が棚田に注ぎ込まれ「冷たい!」の歓声や拍手が上がりました。

